

入門者のための

Frequently Asked Question

FAQ

このコーナーでは、みなさんから寄せられたインターネットに関する
質問や疑問についてお答えしていきます。

日頃からわからないなあと思っている疑問、困っていることなどありましたら
どんなことでもけっこうですから質問を編集部までお寄せください。

宛先は ip-faq@impress.co.jp です。電子メールでの回答はできませんのでご了承ください。

先月号の暗号化電子メール「PGP」の取り扱いに関する回答のなかで、非常に重大なまちがいが見つかりました。つつしんでお詫びするとともに、ご注意くださいとさせていただきますようお願い申し上げます。以下、詳しく説明します。

先月の「PGP」に関する回答の最後で、PGPの入手先について、

「少なくとも米国に設置されている
Anonymous FTP サイトから入手するよ
うに心がけたほうがよいでしょう」

となっていました。これは、

「少なくとも米国以外に設置されている
Anonymous FTP サイトから入手するよ
うに心がけたほうがよいでしょう」

が正しいものです。全く逆の内容になってしまっていますので、ご注意をお願いすると

もに、もし、米国から入手してしまった場合には即座に削除をお願いします。また、できましたら、入手先のAnonymous FTP サイトの管理者に誤ってファイルを転送してしまったこととそれらのファイルはすでに削除したことを報告しておくことをおすすめします。

さらに、前回の説明を補足しておきます。接続経路として米国を通る場合も、できれば避けたほうがよいでしょう。つまり、たとえば、ヨーロッパなどのサイトからの入手も控えるべきです。すでに

ftp.aist-nara.ac.jp

など、国内のいくつかのサイトに置かれてい
ますから、そこから入手するようにしてください。

また、ソフトウェアのバージョンとの関連についても補足しておきます。バージョン2.3aと呼ばれるものまでは、米国の内外を問わず利用されてきました(これが合法であったか非合法であったかの判断は未だになされていません)

しかし、バージョン2.4以降については、米国内での利用に限定されています。

現在、米国外で利用できる可能性のあるバージョンは2.6uiと呼ばれるものです。米国内で利用されているPGPは2.6以降メッセージの形式が変更されているのですが、この新しい形式のメッセージについても解釈できるように2.3aをベースに米国外で変更されたのが2.6ui(unofficial international)です。

また、2.6.2iというバージョンもありますが、これは米国内での利用に限定されている2.6.1を海外に不正に持ち出したものがベースになっています。このバージョンについては、「米国外に持ち出したこと」は違法であるが、すでに持ち出されてしまったものを利用することは違法ではないという主張のもとついでに米国外でも利用されているようです。

いずれにせよ、前回も述べたとおり、PGPの利用についてはグレイな部分があるということを認識して利用するようにしてください。

地方都市に住んでいてインターネットに興味のある人はアクセスポイントが少ないのでなかなかネットサーフはできません。そこで、友人らと集まって、ホストを置いて専用線接続を行い、そこにみんなでアクセスするというようなことを考えています。しかし、あるプロバイダーからは難しいという答えが返ってきました。このようなことをしてはいけないのでしょうか？(小田島慎一さん)

A. 前回この件についてお答えしたのですが、内容が不十分であるという指摘を受けましたので、補足しておきます。

質問のように自分たちでアクセスポイントを設置する場合、前回紹介した方法は、「非営利」を前提にプロバイダーに許可をもらい、自分たちでドメイン名を取得するというものでした。せっかく自分たちでアクセスポイントを設置したのだから、自分たちの名前を付けたいのではないかと思って

前回のような回答となりました。しかし、そのアクセスポイントをプロバイダーのネットワークの一部にしてしまうという方法もあります。

この場合、ドメイン名は、プロバイダーのものを用いますから、前回の回答のように自分たちのドメイン名を取得する必要性はありません。また、AUP(Acceptable Use Policy)もプロバイダーのものに従いますから、営利目的での利用なども可能になりま

回答者 砂原秀樹

奈良先端科学技術大学院大学
情報科学センター助教授
電気通信大学情報工学科助教授(兼任)
WIDE プロジェクト・ボードメンバー。
日本でのインターネット普及のために
研究と後輩の指導に努めている。

す。プロバイダーの正式なアクセスポイントではありませんから、当然そこにアクセスできる人は小田島さんたちの仲間だけに限定されますが、プロバイダーが対応してくれるなら、こうした方法も一つの解決策でしょう。

ただし、運用の問題、費用の問題(金額だけでなく支払い方法なども問題となる)など検討すべき点は非常に多いため、プロバイダーとの綿密な打ち合わせが必要になります。前回の最後でも述べましたが、こ

うした問題に対応してくれるのは、やはり経験豊富な大手のプロバイダーになってしまふようです。1つのプロバイダーに断られても、あきらめずにいろいろなプロバイダーと交渉してみることをおすすめします。

NetNews を利用しているのですが、自分の興味に合うニュースグループがありません。新しいニュースグループを作りたいと思ったらどのようにすればよいのでしょうか?

(古田武さん)

A. NetNews のしくみから言うと、技術的には誰でもニュースグループを作ることができます。しかし、このことは勝手に新しいニュースグループを作ってよいという意味ではありませんから注意してください。

基本的に、ニュースグループのカテゴリ(fj.foo.bar というニュースグループを作成したい場合には fj)ごとにルールが決まられており、それにしたがってニュースグループが作成されることになっています。

たとえば、 fj の場合には選挙によって選ばれた管理人によって構成されるニュースグループ管理委員会が設置されており、定められたルールにしたがって決定されます。このルールは「ニュースグループ管理の手引き」と呼ばれています。

ちょっとややこしいのですが、「新しいニュースグループ作成の提案の作成 (Proposal)」、「それに対する NetNews 上での議論 (CFD)」

「合意方法の選択 (CFX)」、「投票を行う場合は投票 (CFV)」、「ニュースグループの作成」という手順になります。

基本的にネットワーク上での合意にもとづいてニュースグループを作ることになりますから、関連するニュースグループで多くの合意を集めておくといふののではないかと思います。

「ニュースグループ管理の手引き」は、 fj.news.group に定期的に投稿されていますし、 AnonymousFTP でも入手できますから、詳しい手順についてはそちらを参照してください。

これに対して tnn は、プロバイダーの一つである IJ によって運用されており、 IJ が組織した管理組織 (アドバイザリーコミTEE) によって管理されています。

こちらは、 IJ が必要と判断した場合、ま

たは IJ NetNews の利用者 (これは IJ の契約者だけでなく、 tnn にアクセスできるユーザー全体を指します) が、利用規定にしたがって開設を依頼した場合にのみ新規にニュースグループを設置することができることになっています。

利用規定などは、 tnn.announce に定期的に投稿されています。また、 IJ の AnonymousFTP サイト ftp.ij.ad.jp から入手することができます。

こちらは、基本的にアドバイザリーコミTEEによってよいと判断されれば (公序良俗に反する場合やすでにあるニュースグループで十分な場合でなければ大抵の場合は認められます) ニュースグループは新設されるようになっています。

このほか、 comp (コンピュータに関する

```
alt.att.a.---X---.XXXXXXXX.--XX---.XXXXXXXX
alt.att.b.--X-X--.--X---.-X-X--.--X---
alt.att.c.-X---X-.---X---.--XX---.--X---
alt.att.d.X-----X---X---.-XXX---.--X---
alt.att.e.XXXXXXXXX---X---.X---X-X---X---
alt.att.f.X-----X---X---.X---X---.---X---
alt.att.g.X-----X---X---.-XXXX-X---X---
alt.att.h.-----
alt.att.i.X-----X.XXXXXXXXX.X-----X.-----X-----X.--XXX-.X-----X-----
alt.att.j.-X---X-.X-----X.X-----X.-----X-X-X-X---X---X-----X-----
alt.att.k.--X-X--.X-----X.X-----X.-----X-X-X-X---X---X-----X-----
alt.att.l.---X---.X-----X.X-----X.-----X-X-X-X---X---X-----X-----
alt.att.m.--X---.X-----X.X-----X.-----X-X-X-X---X---X-----X-----
alt.att.n.--X---.X-----X.X-----X.-----X-X-X-X---X---X-----X-----
alt.att.o.--X---.XXXXXXXX.-XXXXX-.-----.-XX-XX-.---XXX-.XXXXXXXX.XXXXXXXXX
```

図1 alt カテゴリに残る変なニュースグループ名の残骸

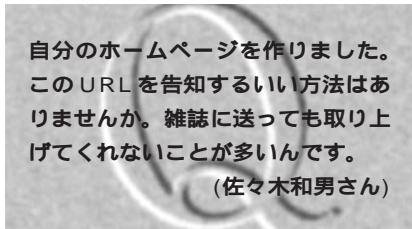
グループ) rec (趣味、レクリエーション関連のグループ) sci (科学に関するグループ) soc (社会的な事柄に関するグループ) news (ネットニュースそのものに関するグループ) などのニュースグループでは、基本的に投票を行って新設の可否が決定されます。また、alt (その他) カテゴリーのニュースグループでは、明確な管理ルール

は決められていないようです。勝手に作ってよいわけではないらしいのですが、それを明確に示す文書を僕は見たことがありません。その結果、図1に示すようなわけのわからないニュースグループの残骸が存在しているようです。

また、ローカルニュースグループと呼ばれる各組織内での利用を前提としたニュース

グループでは、それぞれの管理者がルールを決めていると思いますので、管理者に問い合わせるとよいでしょう。

とにかく、ネットニュースを読んでいると、どうやってニュースグループを作ればよいかが自然に理解できると思いますので、まずはいろいろとネットニュースを読んでみるとよいと思います。



A せつかくWWWでホームページを作っても見てもらえなければ意味がありませんよね。しかし、雑誌などで取り上げられるページは、マスメディアという性格上、多くの人にとって役に立つ情報や、インパクトのあるホームページということになってしまうようです。

しかし、インターネットはマスメディアと異なり、たとえその情報が数人にしか役に立たなくても、意味がある限り有効に利用できるようなっているべきですね。

WWWはサーバーを設定しても、ホームページを作成しても、そのままでは誰にもそのページが存在を知らせることはできません。そこで、他のサービスを利用することになります。たとえば、ネットニュースやメ

ーリングリストは、このための広報手段の一つとなります。ページの内容に合ったニュースグループやメーリングリストに、「このようなホームページを作成しました」というメッセージを掲載するとよいでしょう。

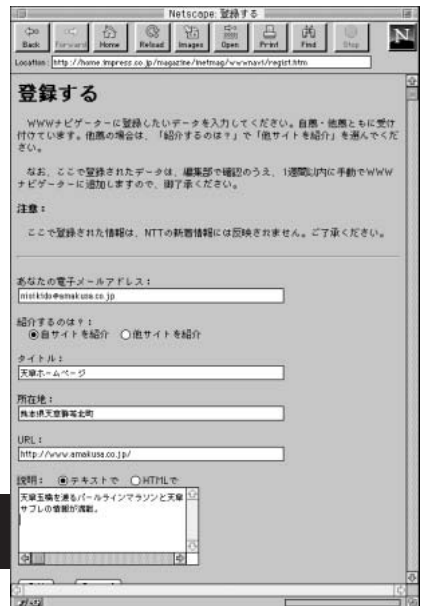
また、公共性の高い内容であるならば、fj.net.infosystems.announceなどのニュースグループを利用するのもよいでしょう。さらに、有名なWWWサーバーや内容に関係のあるWWWサーバーのページからリンクを設定してもらってもいいかもしれません。それぞれの管理者にお問い合わせするとよいでしょう。

インプレスのサーバーなど、サーバーによっては、管理者にいちいち頼まなくても自分で登録してリンクを設定できるものもありますから、そういったものを利用してみることも1つの方法ですね(図2)。

ただし、重要なことは、WWWで提供する情報の質だと思います。情報の質が高ければ、あまり宣伝をしなくても多くの人がアクセスしてくるようになると思います。とくに知り合いでないかぎり、その人の単なるプロフィールを見たいとは思いませんよ

ね。提供する情報がそれを受けとる人にとってどのくらい意味があるかをよく考えてみるべきでしょう。誰もアクセスしてくれないという前に、自分のホームページが持っている情報の価値についてアクセスする側の立場になって考えてみるべきではないかと思えます。そして、情報は作りっぱなしにするのではなく、常にベストの状態に維持し続けることが、多くの人にアクセスしてもらおうコツではないでしょうか。

図2 インプレスのWWWナビゲーター
URL <http://home.impress.co.jp/magazine/netmag/wwwnavi/regist.htm>





入門者のための

FAQ

AnonymousFTPのサイトを選ぶときなど、自分と相手の間にどれぐらいのコンピュータが介在しているのか知りたいときがあります。そこで、現在自分が利用しているコンピュータと相手のコンピュータの間が、どのように接続されているのかを知るためにはどうすればよいでしょうか？ (鈴木敬視さん)

A. インターネットでは、データが相手に到達するまでの道筋(経路)が、そのときどきのネットワークの状況に応じて刻々と変化するため、自分と相手との距離を計ることは非常に難しいのですが、tracert(トレースルート)というUNIX上のツールを利用すると、現在の経路を知ることができます。利用方法は簡単で、自分のコンピュータ上で

`%tracert 相手のコンピュータ名`のように実行すれば、結果を得ることができます。

たとえば、brains.cs.uec.ac.jpというコンピュータからwww.impress.co.jpというコンピュータまでの経路を調べる場合には、図3のように実行します。

結果は、中継しているコンピュータ名とそのIPアドレス、そしてそこに到達するまでの時間(RTT:正確にはデータが自分から中継するコンピュータに到達してその返答が自分に返ってくるまでの時間)を表示しています。データは、自分のコンピュータを出発して、上に表示されたコンピュータから順に経由していき目的地に到着します。

この例では最後にimpgw.impress.co.jpというコンピュータが表示されて終わって

```
brains.cs.uec.ac.jp% tracert www.impress.co.jp
tracerttoimpgw.impress.co.jp (192.218.90.1),30hopsmx,40bytepackets
 1 gladys (130.153.129.36) 1 ms 1 ms 1 ms
 2 bn15s1.uec.ac.jp (130.153.28.13) 2 ms 2 ms 2 ms
 3 WALL.bb.uec.ac.jp (130.153.12.17) 3 ms 3 ms 3 ms
 4 uec-cisco.uec.ac.jp (130.153.8.50) 5 ms 4 ms 4 ms
 5 wnoc-tokyo-cisco.wide.ad.jp (133.4.3.9) 18 ms 17 ms 16 ms
 6 wnoc-tokyo-cisco2.wide.ad.jp (133.4.3.16) 18 ms 18 ms 17 ms
 7 wnoc-tokyo-otemachi.wide.ad.jp (133.4.28.2) 32 ms 22 ms 23 ms
 8 otemachi.ij.net (202.249.2.18) 21 ms 28 ms 30 ms
 9 otemachi0.ij.net (192.244.176.3) 24 ms 24 ms 29 ms
10 impressgw.ij.net (192.244.180.122) 45 ms 45 ms 48 ms
11 impgw.impress.co.jp (192.218.90.1) 46 ms 153 ms 47 ms
brains.cs.uec.ac.jp%
```

図3 tracertの実行結果

```
brains.cs.uec.ac.jp% tracert clapton.nc.u-tokyo.ac.jp
tracert to clapton.nc.u-tokyo.ac.jp (130.69.251.15),30hopsmx,40bytepackets
 1 gladys (130.153.129.36) 1 ms 1 ms 1 ms
 2 bn15s1.uec.ac.jp (130.153.28.13) 2 ms 2 ms 2 ms
 3 WALL.bb.uec.ac.jp (130.153.12.17) 2 ms 4 ms 3 ms
 4 uec-cisco.uec.ac.jp (130.153.8.50) 5 ms 4 ms 4 ms
 5 dentsuu.bb.sinet.ad.jp (150.99.32.1) 4 ms 4 ms 4 ms
 6 nacsis-1-pp-dentsuu.bb.sinet.ad.jp (150.99.82.1) 10 ms 9 ms 9 ms
 7 nacsis-2.bb.sinet.ad.jp (150.99.99.2) 10 ms 11 ms 10 ms
 8 new-tokyo.bb.sinet.ad.jp (150.99.101.10) ms 13 ms 13 ms
 9 hongogw.nc.u-tokyo.ac.jp (192.41.197.3) 117 ms 181 ms *
10 ncgw.nc.u-tokyo.ac.jp (130.69.127.1) 35 ms 21 ms 21 ms
11 clapton.nc.u-tokyo.ac.jp (130.69.251.15) 28 ms 34 ms 72 ms
brains.cs.uec.ac.jp%
```

```
clapton.nc.u-tokyo.ac.jp% tracert brains.cs.uec.ac.jp
tracert to brains.cs.uec.ac.jp (130.153.129.7), 30hopsmx,
40bytepackets
 1 fs (130.69.251.14) 0 ms 0 ms 10 ms
 2 ncgws1 (130.69.250.6) 10 ms 10 ms 10 ms
 3 tix-gw2.tisn.ad.jp (133.11.127.16) 10 ms 20 ms 10 ms
 4 ut-wide (192.41.197.1) 10ms 20ms 10ms
 5 wnoc-tokyo-cisco2.wide.ad.jp (133.4.6.1) 10 ms 20 ms 10 ms
 6 wnoc-tokyo-cisco.wide.ad.jp (133.4.3.9) 20 ms 80 ms 100 ms
 7 dentsu-2.bb.sinet.ad.jp (150.99.32.2) 30 ms 30 ms 30 ms
 8 WALL.bb.uec.ac.jp (130.153.8.53) 30 ms 20 ms 30 ms
 9 W-1.bb.uec.ac.jp (130.153.12.15) 30 ms 30 ms 30 ms
10 gladys.cs.uec.ac.jp (130.153.28.33) 30 ms 30 ms 40 ms
11 brains.cs.uec.ac.jp (130.153.129.7) 40 ms 30 ms 30 ms
```

図4 行きと帰りで経路が異なる例

上: brains.cs.uec.ac.jpからclapton.nc.u-tokyo.ac.jpへの経路
下: clapton.nc.u-tokyo.ac.jpからbrains.cs.uec.ac.jpへの経路

ますが、これからwww.impress.co.jpがimpgw.impress.co.jpの別名であり、impgw.impress.co.jpが正式名称であることがわかります。

インターネットでは、行きと帰りで異なる経路をたどる可能性があるため、正しい経路を知るためには相手のコンピュータにログインして、自分が利用しているコンピ

ュータを引数としてtracertを実行してみるとよいでしょう(図4)。

なお、tracertは標準でコンピュータにインストールされていない場合がありますが、これはフリーソフトウェアですので、AnonymousFTPなどで入手してインストールしておくといよいでしょう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp